

地域と学ど

山形大学地域教育文化学部

私は東アジアの人やモノの交流史を中心に、未来の東アジア地域の平和構築に資する社会科学の教材開発を目指しています。また山形県のなかに息づく東アジアの存在にも目を向け、地域に根差した国際理解教育について考えています。

山形県は中国東北部(旧満州)からの帰国者や、主としてアジア出身の外国人配偶者が共に生活している地域です。近年では特に複数の文化・言語・歴史を持つ国際結婚家庭の子女に対するさまざまな支援が求められています。「われわれが変われば、彼らも変わり、彼らが変われば、われわれも変わる」と言われるように、文化の違いを知り、認

社会科教育・国際理解教育 **高吉嬉** 教授

▽1964年生まれ、韓国・忠清南道出身。山形大着任は2002年。



国際理解を深めるために実施した韓国への旅行

隣国に友人、平和への一歩

め合い、学び合うことが大切だと思えます。

そのための一つの実践として、私は学生と一緒に韓国や中国などを訪れる旅を続けてきました。2016年3月には、山形県の社会科教員、高齢者福祉施設や児童保育所などのみなさん

と共に釜山を訪れました。この旅に参加したある学生は、「日本と韓国は仲が悪

いと言われていますが、それは本当かと感じます。歴史認識で政治的な関係がギクシャクしているとしても、市民のレベルでの交流を無くす必要はないと思

ます。むしろそのように言われているからこそ、市民レベルの交流を大切にして

いきたいと思いましたが、その感想を書いてくれました。「友だちのいる国に銃は向けられない」と言いますが、一人一人の学生が

世界、特に東アジアに一人の友だちを持つことができれば、平和な関係をつくる最初の一歩になると思います。

韓国語で「チングガデゴシポヨ」は「友だちになりたいです」という意味です。国際理解の視点に立った社会科学教育の第一歩として必要なのは、教師が子どもにとつて世界の友だちとつながるための「窓」になることではないかと思

11月1回掲載します